

たちんぽ

～ヒメノの場合～



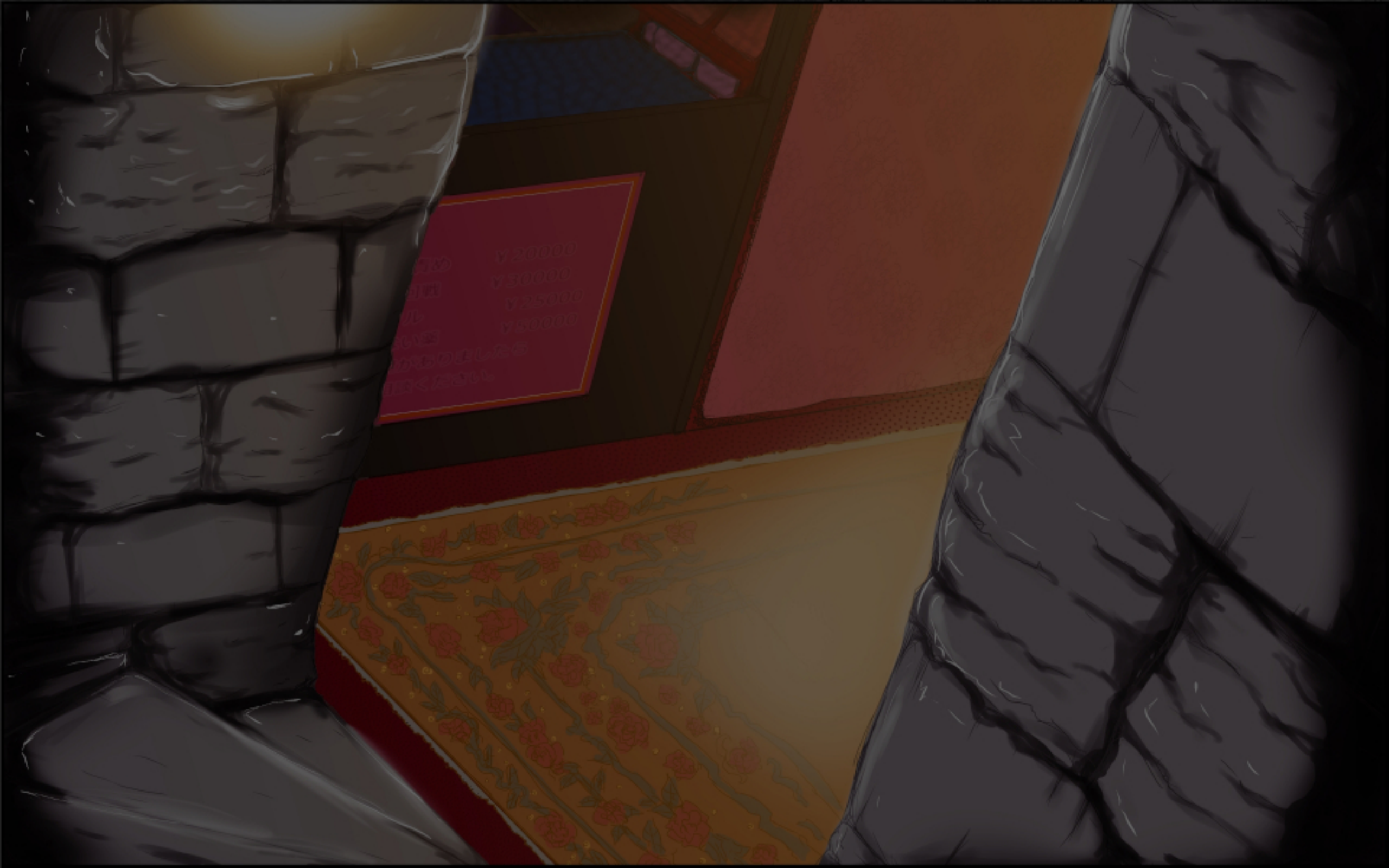
週末——。俺はいつもの去勢娼婦の店に行く。

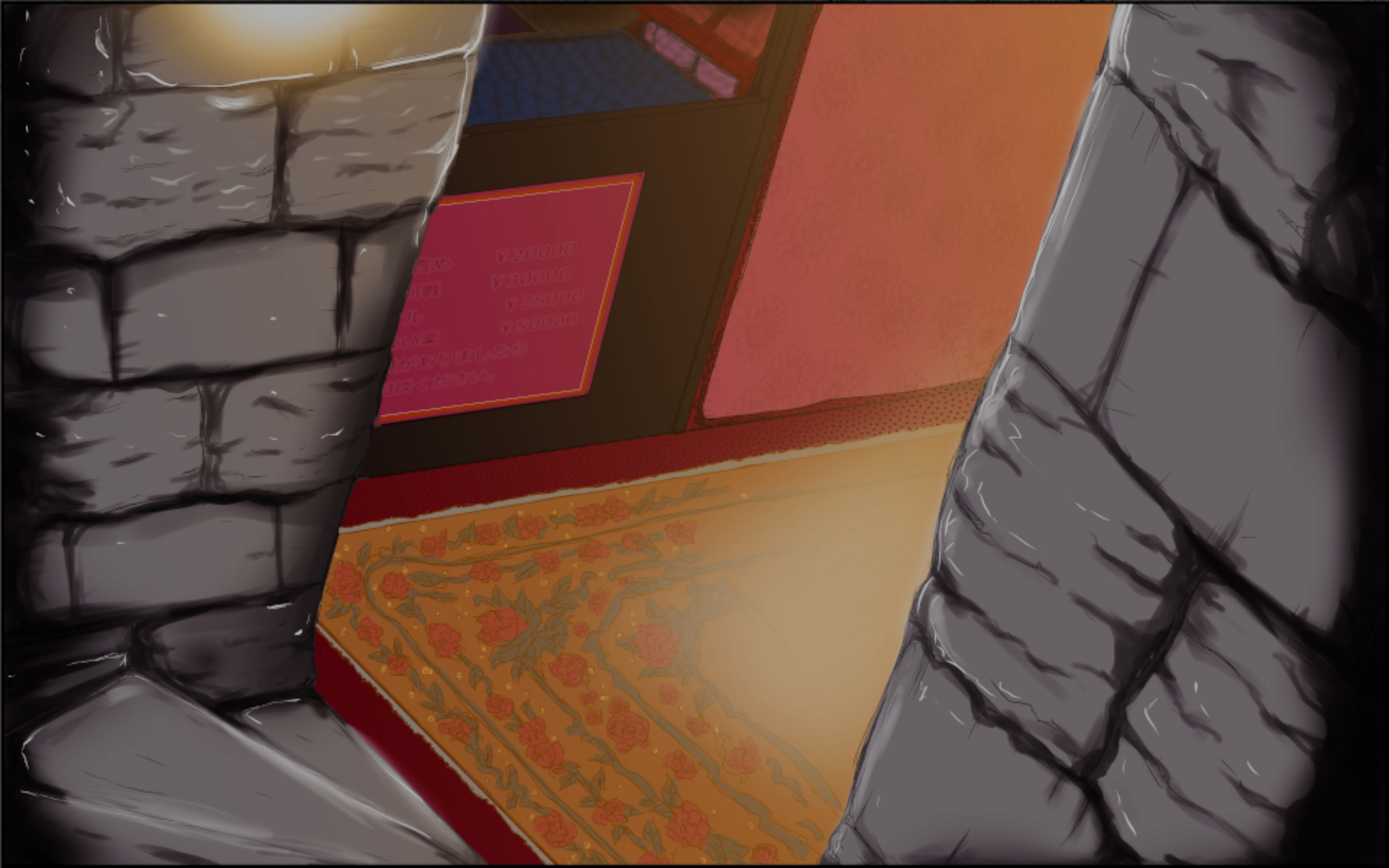
あそこに行くのは2週間ぶりだ。バイトがちよっと忙しく、土日もシフトを入れられてしまって、ぶっ続けて働いた。

バイトとはいえフルで8時間入っているので残業が無いのを除けば普通のサラリーマン並みに働いている。

……。疲れた。気だるい気分。夜の埼玉をフワフワと歩く。

——俺は元気を出す為にコンビニで栄養ドリンクと、
100円のパック酒を買った。この組み合わせは……。効く。

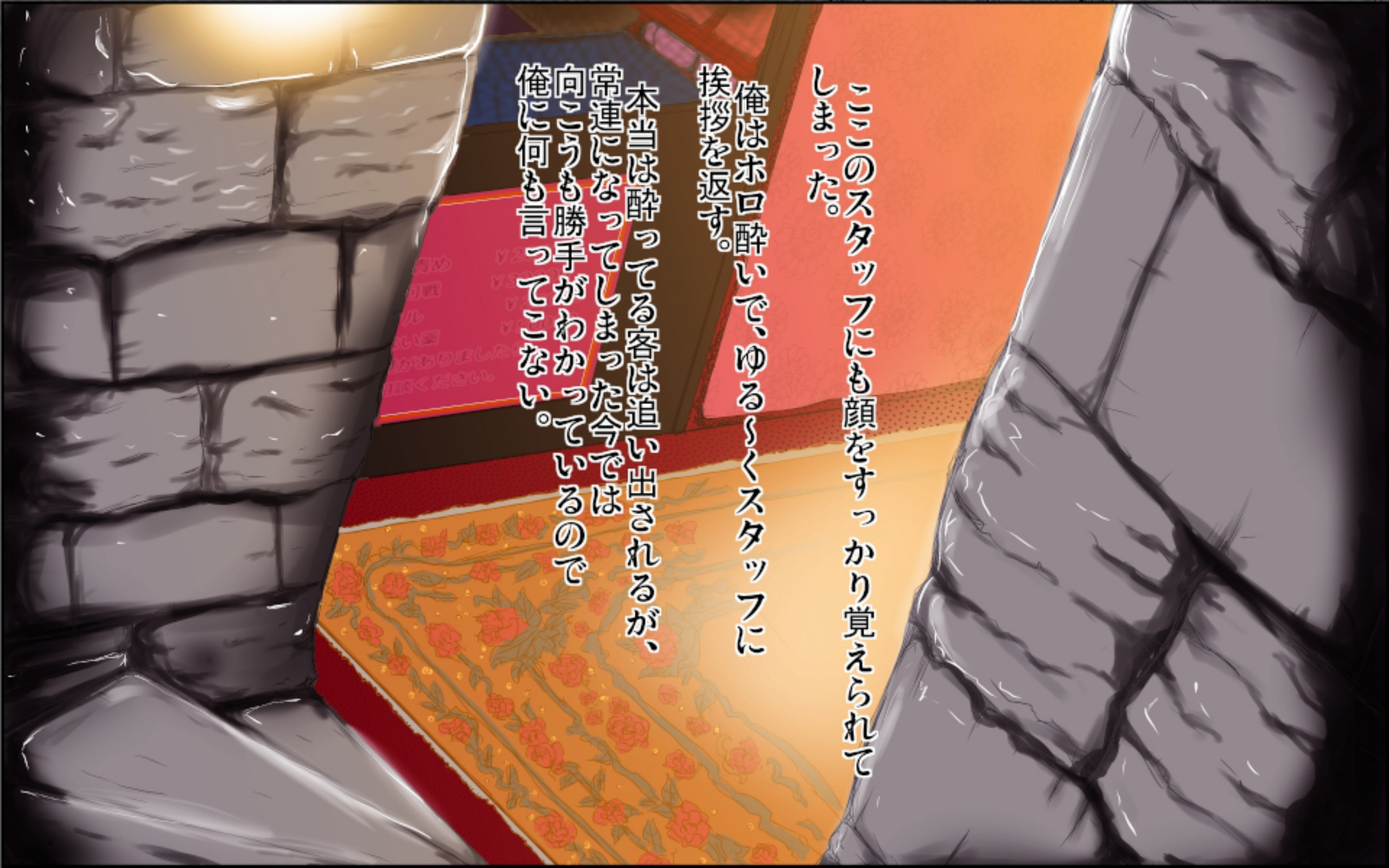




¥20000
¥30000
¥25000
¥50000

「いらっしゃいませ。
あ、鬼頭様、本日もご購入ありがとうございます」

お預め ¥20000
お預め ¥30000
お預め ¥25000
お預め ¥50000
お待ちしております
ご来店ください



ここのスタッフにも顔をすっかり覚えられてしまった。

俺はホロ酔いで、ゆる〜くスタッフに挨拶を返す。

本当は酔ってる客は追い出されるが、常連になってしまった今では向こうも勝手がわかってるので俺に何も言っていない。

とはいえ、少し酔いを醒ましてから
楽しみたいから一旦店の外にある灰皿で
一服する事にした。

飲み代 ¥20000
おつまみ ¥30000
お茶 ¥25000
お水 ¥50000
お待ちしております
ご来店ください

—！ 『ふん……』


夏が終わり、乾いて冷えた空気が
酔った顔面と気持ちいい。

。。。。。。そーいや、スタッフは何で俺の名前知ってたんだ？

名乗った覚えはないぞ？ 嬢から聞いたのかな？

。。。。。。お前が酔っつるからか、俺の名前を知ったのか？

もう一本タバコに火をつける。。。。。



俺はいつものルイを指名した。
しかし、ルイは別の客を取っていた。「残念……」。

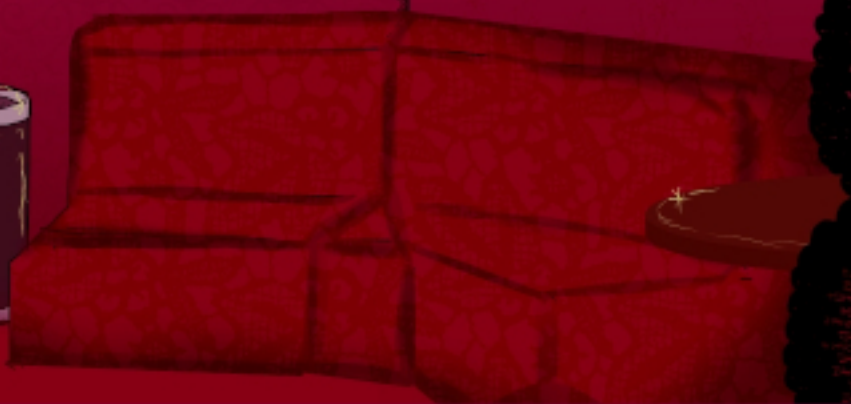
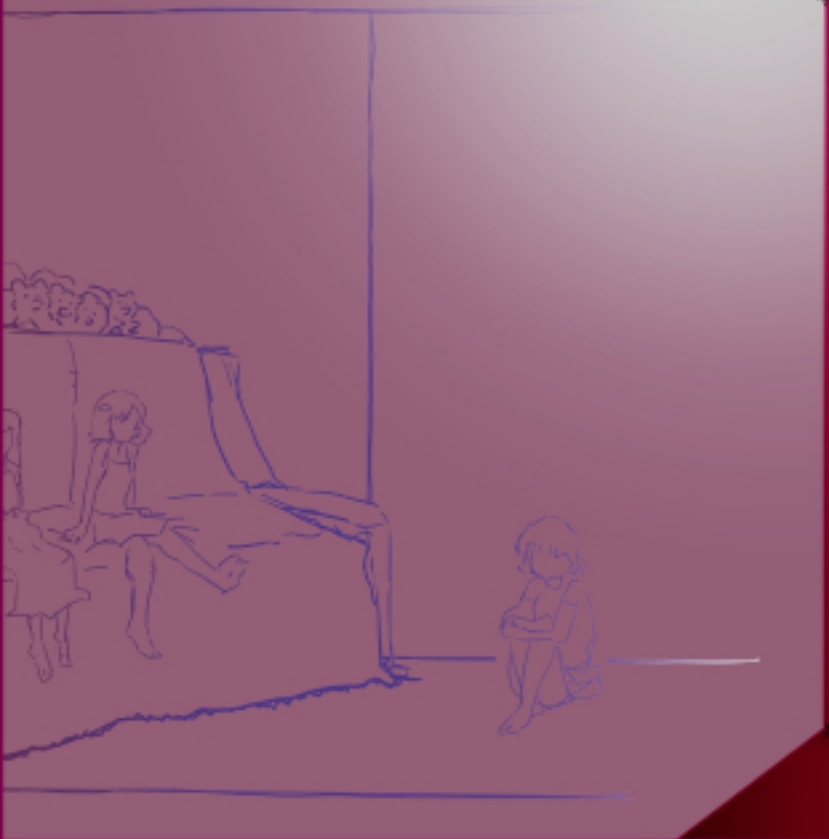
ルイの仕事が終わるのを待つという手もあるが、
疲れてるのですぐ帰りたいたい、かといって何もしないのも、
もつたいない。


なので別の去勢嬢を指名する事にした。



マジックミラーの部屋。


客が外から指名したい子を選ぶ為の
ショーウィンドウ。





俺が酔った頭でボケっとしながら
嬢達を眺める。


ミラーの前に人がいるのかどうか
分からない嬢達は素の姿を見せる。



どういう経緯だかは知らないが、
彼女らは生まれた時は男の体だった。

しかしいつしか去勢して男性ホルモンを失った
彼女らは、成人男性の体を手に入れる事なく
歳を重ねている。

もちろん個人差もあって、「男」になりかけた
ような雰囲気の子もいる。

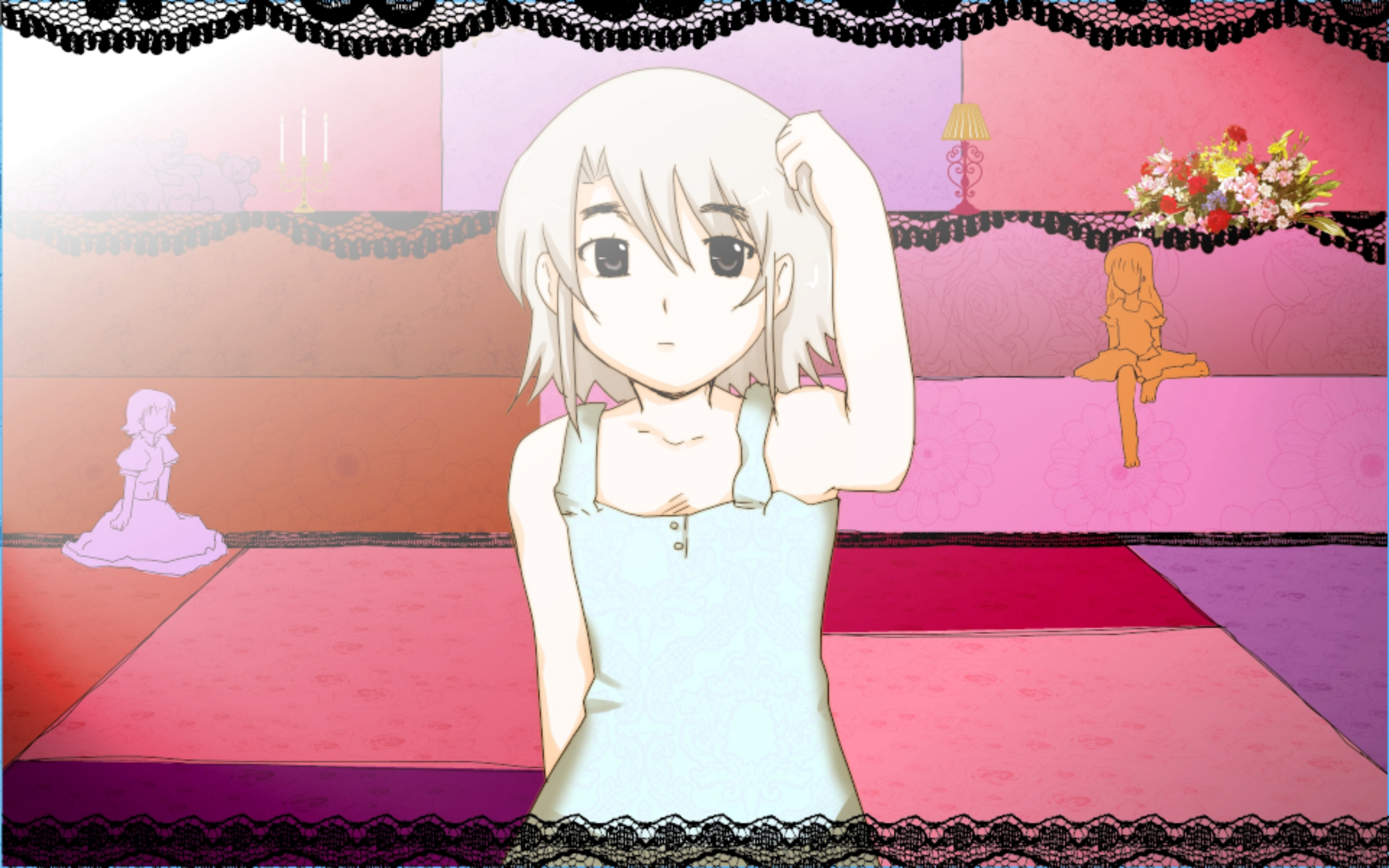



ルイに聞いたのだが、
中には女性ホルモンを注射して、
より女に近づこうとする子もいるらしい。

そうなるともうニューハーフと
大差がない。

マジックミラーの前で身なりを整えている。








俺はそっと、その子の正面に移動する。

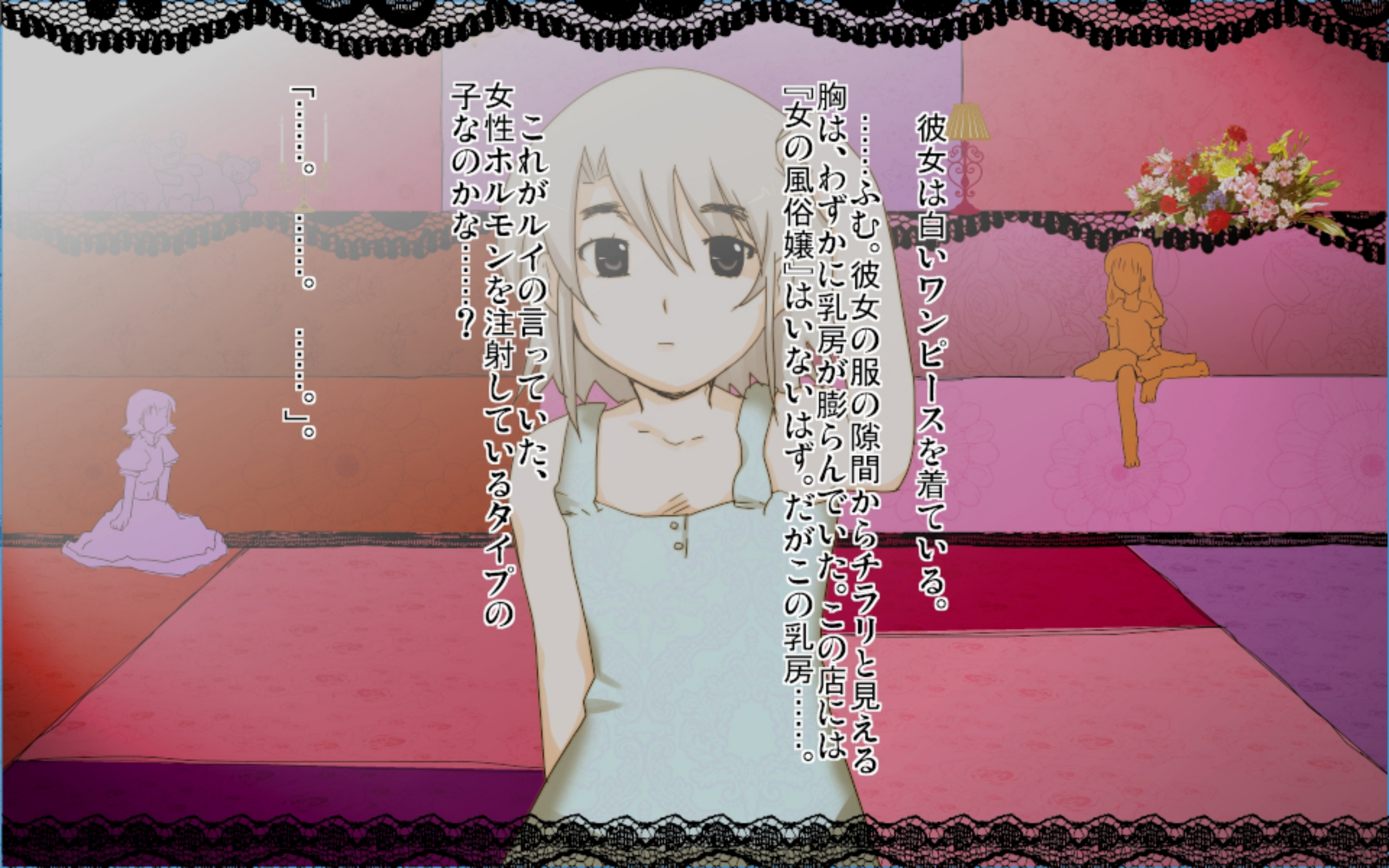
マジックミラーなので当然俺には
気づいていないはずだ。



——彼女は髪をとかし、肌のコンディションを
確かめるように顔を左右にゆっくり
動かしながらミラーをじっくりと見る。

そして俺はその様子をマジックミラー越しに
30センチぐらいの距離で眺めている構図。

……なかなかの俺好みの子だ。かわいい。



彼女は白いワンピースを着ている。

……ふむ。彼女の服の隙間からチラリと見える胸は、わずかに乳房が膨らんでいた。この店には『女の風俗嬢』はいないはず。だがこの乳房……。

これがルイの言っていた、女性ホルモンを注射しているタイプの子なのかな……？

「……。……。」

芝木...

芝木...